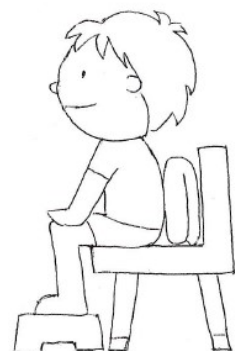


お子さんへの関わり方のコツ

～試してみよう！知って得するリハビリの視点～



はじめに

相模原市こどもリハビリテーション業務推進連絡会(相模原市役所の小児に関わる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の連絡会)では、大人の援助が必要なお子さんや環境を整えることで力を発揮することが出来るお子さんに対して関わる時のリハビリテーションの視点について資料を作成しています。

今回、子育て中の保護者の方や、お子さんの支援に関わる皆さんの日々の関わりのヒントにいただければとの思いから、本資料を支援者の皆さんへお届けすることになりました。お子さんへの関わりの中で「どうしてかな?」「こうするといいのかな?」と、悩んだり工夫を考えたりする時に手に取っていただけると幸いです。

また資料の内容は必ずしもすべてのお子さんにあてはまるとは限らないことをご理解いただいた上でご活用ください。

この資料で不明な点がありましたら、陽光園や各区子育て支援センターのリハビリテーション職員まで、ご連絡ください。

第一版発行：令和7月3月

第二版発行：令和8年3月(随時更新していきます。)

監修：相模原療育園施設長 細田のぞみ先生

作成・責任・問い合わせ先(資料についてご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。)

相模原市立療育センター陽光園 療育相談室 042-756-8435

緑子育て支援センター 療育相談班 042-775-1760

中央子育て支援センター 療育相談班 042-756-8424

南子育て支援センター 療育相談班 042-701-7727

リハビリテーションの仕事って???

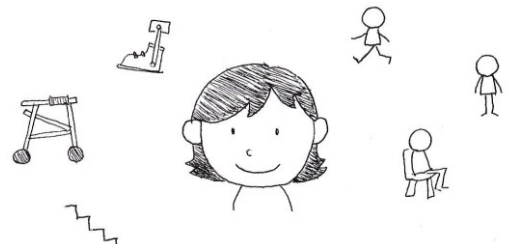
子どもが安心して遊び、学び、暮らしていけるように、そして家族や関係者も笑顔で成長を見守れるように、それぞれの職種の専門性を生かし、お子さんの様子をアセスメントし、子どもの心と身体を育むために必要なサポートを行います。

リハビリテーション職は以下の3つの職種があります。

理学療法士 (Physical Therapist = P T)

何らかの事情により、座る、立つ、歩くといった運動面の獲得に遅れのあるお子さんや障害のあるお子さん、一緒に暮らすご家族に向けた支援を行う専門職です。

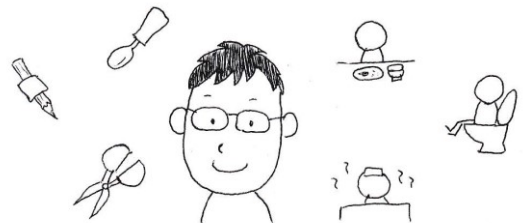
- ・動作の方法や体操の方法についての助言をします
- ・福祉機器の提案と、作製に向けた助言、調整を行います
- ・園や学校生活についてのアドバイスをします etc...



作業療法士 (Occupational Therapist = O T)

「食べる」、「お風呂に入る」、「トイレに行く」、「遊び」など日常生活に関わるすべての活動を私たち作業療法士は『作業』と呼んでいます。その『作業』に焦点を当てて、支援を行う専門職です。

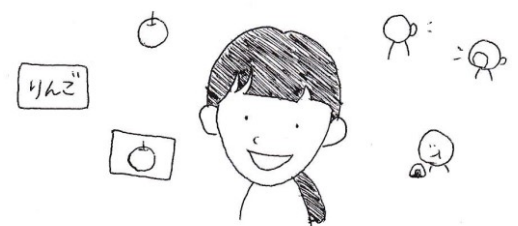
- ・お子さんの特性をとらえて、どうサポートすれば、その子の「作業」がうまくいくかを私たちは考えます
- ・例えば、お子さんの手が不自由で「食べる」作業が難しくなっている場合は、市販のスプーンが持ちやすいよう、持ち手を太く加工して、その原因に応じた「食べる」作業をサポートします etc...



言語聴覚士 (Speech Therapist = S T)

ことばやコミュニケーション、食事などで困っているお子さんやご家族がより生活に適應できるように環境を整えたり、ご家族の関わりや介助の方法と一緒に考え、支援を行う専門職です。

- ・楽しめる活動の中で、ことばやコミュニケーションを育みます
- ・安全で安心して食べられるよう食事場面を評価し、助言します
- ・園や学校生活についてのアドバイスをします etc...



資料の見方

姿勢が崩れてしまう子って…

(例えば)

- ・椅子から体がずり落ちそうになる。
- ・お尻が椅子からはみ出ている。
- ・床につかず、ぶらぶらしている。

① お子さん像です。

お子さんが困っている状況を記載しています。

どんな時?こんな

- 姿勢を保つための筋力が弱
- お尻で支えたいのに、滑っ
- ▲体と椅子が合っていない。
- ◆お尻のどこで支えているの

② お子さんが困っている理由です。

※理由は1つではありません。

お子さんは●、■、▲などの理由に当てはまるかを考えます。

※内容によっては記号がない場合もあります。

③ 具体的な対応方法です。

理由ごとに記載しています。②で考えた理由の記号と同じ記号の欄に書かれている「こんな支援が助かります!」の具体的な内容を試してみましょう。

- 助かります!
- 少し体を支えるものを使う。
 - ・肘付きの椅子に変えてみる。
 - ・背もたれまで距離がある場合は背もたれと背中 사이에タオルを挟んでみる。
 - ・支えを多くするため箱椅子を使用する。
 - 滑らないようなものを使う。
 - ・座面に滑り止めシートを敷いたり、背もたれのある椅子を使用してみる。
 - ▲足が浮いていない状態にする。
 - ・足台を置いて、足の裏が着くようにしてみる。
 - ▲座面の大きさはお尻の大きさより大きく、座奥は背中から膝下までの長さ
 - ・椅子の座奥が長い場合には背もたれと背中 사이에タオルを挟んでみる。
- もしくはお子さんの体に合わせた箱椅子を使用する。
- ◆体重が効いている場所がわかるようにする。
 - ・硬い素材や高反発のクッションを敷いてみる。

(例えば)

「椅子から体がずり落ちそうになっている理由」が「●姿勢を保つための筋力が弱い」の**ではないか**と感じた場合…

こんな支援が助かりますの●の中から**いい**と思ったものから始めてみましょう。



見方のヒント

- ・姿勢が崩れてしまう理由をみつけていく。
- 理由をみつけていくためには、少しずつ支えるところ(足台、背もたれ、ひじ掛け、ベルトなど)や滑り止めシート、クッションを使うなどを追加してみましょう。
- お子さんがリラックスする時なのか、食事をする時なのか、お望ましい状態は変わります。お子さんによっては、椅子に合わせた支援に相談してみてください。

④ ここでは、お子さんの困っている状況がなぜ起こっているのかを考えるヒントや遊びや生活の中での工夫のヒント、基礎知識などを記載しています。